

虚子記念文学館投句特選句・令和七年九月

稲畑廣太郎 選

譜面より旅する十指秋灯下

兵庫 中村恵美

また光押し出すやうにばつた跳ぶ

岡山 石井宏幸

虚子館に入りたる藪蚊叩かれし

新潟 安原 葉

青空も一緒に狩りぬ葡萄園

兵庫 大西美知子

一口の番茶にほどく夜食かな

兵庫 山之口倫子

秋の蚊を打ちては守る五尺の身

大阪 北上美佐子

秋の夜をゆるく流れるビオラの音

三重 中島庸子

化学式の並ぶ黒板秋灯

兵庫 武田奈々

星祭夜空の終はり告げる風

兵庫 藤丸慎士

耳せんを外せばかゆい秋の夜

滋賀 太田 慈

(青少年)

(青少年)

入選句・令和七年九月

叩くだけ叩いて西瓜買はぬ客	埼玉	小田毬藻	馬の背へ花野の風や六甲山	兵庫	谷本逸歩
死は森の真中のにほひ月鈴子	大阪	押見げばげば	ダイジョウウブそのひと言に解く秋思	石川	白根寿子
ぬるい水喜び背伸びする桔梗	千葉	鹿野川小舟	清張にまた騙されにゆく夜長	三重	池本準一
伽あればこそその自由よ秋の夜	大阪	須知香代子	秋の夜をすきとほす音の流れをり	兵庫	川村ひろみ
吊橋は村の入口葛の花	京都	西村やすし	秋の夜や心穏やかならざりし	兵庫	森岡喜恵子
夜半の音の殊に沁み入る風の盆	大阪	河辺さち子	川風の爽涼ほほをふれるなり	兵庫	細田清子
風の盆風が胡弓の音を醸す	兵庫	池田文子	歴史知る椿子人形露の世に	大阪	谷本房子
しほらしき秋を誘ふ銀の匙	大阪	森重深鶴	ロープウェイ足下に拡ぐ真葛原	奈良	堀田ますみ
自然薯堀りをしくじりて零余子飯	奈良	堀ノ内和夫	乗り越えし異常気象や豊の秋	奈良	堀田建夫
吾子転び崩れし騎馬や運動会	愛知	海神瑠珂	水澄むや筑波まるごと映りたり	茨城	杉山 満
風に酔ふ潤朱の指吾亦紅	兵庫	岩永静代	初鴨や置き配出来ぬ備考書き	富山	三河三可
八朔となりてたんぼは黄金色	石川	辰巳昌彦	約束を忘れてしまふ螢の夜	埼玉	吉田春代
新涼のベンチに風の忘れもの	兵庫	奥田好子	極楽の風の虚子館葉月来る	兵庫	黒田千賀子
芦屋のカンナ「細雪」の一場面	大阪	奥野千草	抜穴と伝ふる古墳秋の声	大阪	若林友子
一山の麓は浄土大花野	大阪	多田羅紀子	無事発ちし機影を仰ぎ夜業果つ	大阪	杉山千恵子
青すぎるほど九月一日の空	兵庫	平田 恵	きりもなきこんにやく問答秋の夜	兵庫	上岡あきら
秋の蚊のあはれと云へぬ痒さかな	香川	三好ようこ	食欲は生くる力よ瀬祭忌	兵庫	小柴智子
集まりて確かめ合うて帰燕かな	兵庫	槌橋眞美	虚子館に野球談議の葉月かな	兵庫	伊東伸子
ホ句の秋涼雨暫しの雨宿り	香川	藤田敦雄	秋の夜や歓呼のうねり待つてをり	兵庫	高野さち
爽やかに動画で繋ぐヨガポーズ	三重	吉川博子	露草の青は露草だけのもの	兵庫	日下富貴子
台風一過水たまり飛ぶお下げの子	兵庫	船山美貴	空はまた色塗り替へし葉月かな	大阪	ふじもと言果
人を恋ふ美声の電話秋の宵	三重	松村咲子	ぶり返す残暑にまたも怯みけり	東京	荒川ともゑ
処暑なれどさわやかと言ふにほど遠く	三重	前出美千子	ドライフラワーとなり軽くなる吾亦紅	奈良	山口廣世
波打てる稲穂の風となりにけり	三重	前出公子	路地に灯を集めて秋の夜の胡弓	兵庫	西村みどり
			停船の霧に灯してをりにけり	大阪	立入宮子

爽やかにピアノを弾いてもてなさる	兵庫	吉村玲子	理髪師の缺止まれば虫の声	兵庫	天下明太郎
堀こして咲ける葉月の合歡の花	兵庫	辻田あづき	「いッせーのー」で食ぶ蝗の塩炒め	大阪	棕本望生
秋灯や葉がはりのソノシート	兵庫	武田優子	秋の灯を山河へ置いて星の散る	京都	杉森大介
静かなる竿のしなりに秋の浪	兵庫	藤丸千香子	風を生み風に流るる祭かな	兵庫	福田光博
撫子や神のほどきし花の糸	香川	葛原由起	恋語る駅前広場爽やかに	兵庫	玉手のり子
撫子や母許訪ひし誕生日	京都	木村直子	礼装の城に犇く鰯雲	兵庫	足立朱麻
一閃が空を傾け流れ星	兵庫	涌羅由美	長き夜のボードゲームに独り言つ	大阪	富永武司
言の葉を紡ぐ静寂秋灯	徳島	奥村 里	ねむの木にもう寝ますかとカーテン引く	兵庫	小野寿葉
洗ひたる硯机上にあらたまる	石川	辰巳葉流	この場所にかつて良き医者一人あり	兵庫	友岡飛鳥
秋灯昭和歌謡の繰返し	大阪	西尾浩子	三月経ちかぼちやの花は無かりけり	兵庫	友岡寿子
月光の繻いてゐる夜の声	兵庫	岸川佐江	色褪せぬ仰臥漫録露けしや	鳥取	棕 誠一朗
秋扇まだまだ出番多きまま	兵庫	深尾真理子	鰯雲下車してみたき無人駅	兵庫	二瓶美奈子
凡妻の秋刀魚を選ぶ目の確か	香川	三宅久美子	月天心監督宙に舞ひにけり	兵庫	田中節夫
萩叢に来ては縛るる風となる	兵庫	池田雅かず	ぶだう棚富嶽の風の通り過ぎ	兵庫	柄川武子
子供らの帰り夜長を持て余す	京都	山崎貴子	信号の青澄んでゐる秋の夜	兵庫	山崎渺美
法話終へつと七草の庭にたつ	兵庫	永沢達明	薄原一大円舞茜空	兵庫	今井哲子
炊きたての御飯味噌汁今朝の秋	奈良	河村久美子	葡萄買ふ母の笑顔に会ひたくて	兵庫	三木雅子
吾の庭の天敵葛の花数多	鳥取	前田 千	恋秘めば石榴の粒のほとばしる	兵庫	風待ラテ
草靡くより新涼の風の立つ	鳥取	棕 則子	冠水の地下の車や秋の暮	愛媛	星月彩也華
秋高し庭の眺めに汀子邸	大阪	林 曜子	台風一過夕風夕焼甲子園	兵庫	高市敦之
海峡の碧空広げ去ぬ燕	徳島	多田まさ子	十州の境こちこち蕎麦の花	滋賀	近江堇花
主なき庭の春秋鉦叩	兵庫	藤井啓子	オルガンの音響く丘澄める秋	神奈川	斉藤苑子
緋もうせん幼遊びにこぼれ萩	東京	清水ぼっぼ	ひとときの宇宙の神秘月仰ぐ	兵庫	岩水ひとみ
五十年住屋解体秋の雷	兵庫	松本 敬	虚子館に我が物顔の庭叩き	兵庫	伊集院秀樹
いつまでも続く残暑や田んぼ道	兵庫	安橋興二郎	秋光や虚子に添へたる飴子の手	東京	望月とし江

露草やガード下には草の舟	三重	瀬川琴女
岩肌に千の面影いわし雲	静岡	いたまき苙
朝焼に燃ゆる水面や牧水忌	和歌山	中島紀生
秋高し土堤にて犬の品評会	兵庫	湯浅悦治
へちまさいてあと三年の宮仕へ	兵庫	太平楽太郎
葛の花踏みにじられし秘密基地	兵庫	矢車星風
秋暑し喪服で歩く河原町	兵庫	キートスばんじょうし
鷹渡る眼下は伊良湖岬芭蕉句碑	愛知	小野 薫
初鴨や三々五々に入居者来	兵庫	町田葦たか
枝豆の強き香りにふる里を	兵庫	恵島京子
茹で上げを冷ます間も佳し月見豆	兵庫	恵島祥一朗
曾祖父の寧き眠りに柿供ふ	大阪	深森明鶴
激流に鮭次々と跳ぶ命	神奈川	小林 心
戦場に立つることなし遠花火	熊本	貴田雄介
雨上がる大気吸ひこむ秋の草	滋賀	太田怒忘
波の音聞くばかりなり八月尽	神奈川	金子三奈乃
とんぼうの群がつてゐる風の臍	神奈川	進藤剛至